

「奈良デジタル戦略（案）」に関する意見募集結果

No.	該当箇所		寄せられたご意見	ご意見に対する考え方
	箇所	ページ		
1	I. 基本的な考え方と方向性等 1. 基本的な考え方と方向性－住民起点の「できる化」のためのデジタル (2) 基本的な考え方 ○戦略の基本的方向性－住民起点の「できる化」と共同化	1	例えば、県内市町村で GIS を統一して県と市町村の連携、また各市町村間の連携もとれるようなシステムを作れないか。デジタル化と同じくらい県と市町村間の連携が重要かと思う。	デジタル原則として、「⑥ 県・市町村・準公共分野の協働」を掲げており、県と市町村がデジタル技術を介して協働することは、様々なデータやサービスが有機的に連携されて、利用者の便益を向上させるとともに、新たなサービスの開発や提供方法の改善などイノベーションの創発につながるもので、市町村との連携・協働は重要と考えています。 ご提案の内容については、市町村との施策検討や意見交換において、参考にさせていただきます。
2	I. 基本的な考え方と方向性等 1. 基本的な考え方と方向性－住民起点の「できる化」のためのデジタル (1) 戦略策定の趣旨	1	住民の課題はどのように把握、整理したのか。	一つ一つの行政手続や住民サービスだけに着目するのではなく、住民の方が最終的にどのような経済活動や生活上の課題の解決を目的としているのかということを見通し、そのような住民の目的を達成するための一連の流れの中で、行政手続やサービスをどう組み入れることが住民にとって最も利便性が高いのかという視点から住民の課題を整理しました。
3	I. 基本的な考え方と方向性等 3. 8つのデジタル原則（プリンシプル） ①マイナンバーカードの普及とマイナンバー・法人 ID の利活用	7	奈良電子自治体共同運営ポータルサイト（e 古都なら）の今後についての方向性などを表明いただきたい	奈良電子自治体共同運営システム（e 古都なら）は、県と 39 市町村で構成する奈良県電子自治体推進協議会において共同運営する電子申請システムです。奈良デジタル戦略では、「情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革」を重点プロジェクトとして推進することとしていますが、e 古都ならの今後の方向性については、マイナポータルや事業者向けの各省庁のシステムなどとの関係も含めて、同協議会で議論すべきであると考えます。

4	<p>I. 基本的な考え方と方向性等 3. 8つのデジタル原則（プリンシプル） ②住民目線の仕組み</p>	7	<p>『行政手続の「見えない化」という表現があるが、『行政手続の「見えるか』』ではないか。</p>	<p>行政手続は、他の行政サービスを受けるための手続の一部であることや、民間のサービスを利用するための前提となることが多いため、利用者が最終的にどのような経済活動や生活上の課題の解決を目的としているかという視点で、デジタルを活用した事務・サービスの見直し・組み直しを行い、利便性を高めるとともに、個人情報等の取扱いについては、関係法令に従い、適切な対応を行います。</p>
5	<p>I. 基本的な考え方と方向性等 3. 8つのデジタル原則（プリンシプル） ⑤クラウド by デフォルト</p>	8	<p>クラウドサービスについては、年に何度か大規模障害を起こしており、クラウド上で稼働している沢山のサービスが使えなくなるなどの障害が発生している。24時間稼働の命の現場で使う電子カルテシステムに利用することは、危険ではないのか。</p>	<p>近年、急速に発展したクラウドサービスは、費用を削減しつつ高品質な情報システムを整備でき、高度で、常にアップデートされた情報セキュリティ対策の確保が可能です。 障害発生時の業務継続を可能にする技術の活用や目標復旧時間等の設定を含め、適切な要件を充足するサービスを選択することで、ご指摘の点も含めたクラウドサービスの利用を行う必要があると考えています。</p>
6	<p>I. 基本的な考え方と方向性等 3. 8つのデジタル原則（プリンシプル） ⑤クラウド by デフォルト</p>	8	<p>クラウドという単なる実現手段の一つを戦略とするのはどうかと思う。電子カルテベンダーは、クラウド対応可能かもしれないが、多数ある部門システムベンダーは技術的に対応できない可能性が高い。また、クラウド型とオンプレミス型が共存することで、結果的に費用が高額になると考えられる。</p>	<p>クラウド by デフォルトは、戦略そのものではなく、戦略を実行する上でのデジタル原則の1つで、それらのデジタル原則に基づいて「デジタル化によりできること」を実現していくこととしています。 クラウドサービスの特性を踏まえて、長期的な視点で費用を考え、共同化の仕様検討を行います。</p>
7	<p>I. 基本的な考え方と方向性等 3. 8つのデジタル原則（プリンシプル） ⑤クラウド by デフォルト</p>	8	<p>クラウドが良くて、オンプレミスが悪という記載ばかりである。それぞれのメリット・デメリットを評価する必要がある。きちんと比較検討した上でさまざまなシステムに適した方式を採用することを明記してほしい。</p>	<p>日本社会のデジタル化が進展する中、クラウドサービスは今後ますます普及することが見込まれ、その特徴を最大限活用することが本県のデジタル化を加速させることにつながると考えています。 クラウドサービスの特性を踏まえて、長期的な視点で費用を考え、共同化の仕様検討を行います。 クラウドとオンプレミスの比較については、追記します。</p>

8	<p>I. 基本的な考え方と方向性等</p> <p>3. 8つのデジタル原則（プリンシプル）</p> <p>⑤クラウド by デフォルト</p>	8	<p>本デジタル構想で想定している内容に対してクラウド化を行えば実現できるというのは少々無理があると思う。</p>	<p>クラウドベンダーからは、常に新たなサービス内容が提供され、機能の改善も継続的に行われるため、今後の動向を見据えて、将来のシステムを検討する必要があります。</p> <p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化の範囲やインフラ環境等も含め、共同化の仕様検討を行います。</p>
9	<p>I. 基本的な考え方と方向性等</p> <p>3. 8つのデジタル原則（プリンシプル）</p> <p>⑤クラウド by デフォルト</p>	8	<p>病院情報システムの基幹システムを一社に統一する際は、医療現場に大きな負担・時間・費用が必要である。また、部門システムは、基幹システムと連動しており、部門システムをクラウド化している企業はない。もし、奈良県独自で開発していくとなると、その開発費用は膨大であり、システムのガラパゴス化になる危険性がある。</p>	<p>病院情報システムの特徴を勘案し、最新の技術動向を踏まえて、クラウド化の範囲やインフラ環境等も含め、共同化の仕様検討を行います。</p>
10	<p>I. 基本的な考え方と方向性等</p> <p>3. 8つのデジタル原則（プリンシプル）</p> <p>⑤クラウド by デフォルト</p>	8	<p>クラウド事業者だけではなくアクセス回線など広く事業者との会話が必要かと思う。</p>	<p>共同化の仕様検討にあたっては、有識者や関係事業者からのヒアリング等を行い、十分な情報収集を行う予定です。</p>

11	<p>I. 基本的な考え方と方向性等</p> <p>3. 8つのデジタル原則（プリンシプル）</p> <p>⑤クラウド by デフォルト</p> <p>II. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出</p> <p>重点プロジェクト③</p> <p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	8, 17	<p>クラウド by デフォルトではなく、クラウドも含めて最適なシステムの導入としてほしい。また、県のシステムにおいて、情報セキュリティ確保の様々な仕組みの導入とそれらを担う人材の強化を行ってほしい。</p>	<p>クラウドサービスの特性を踏まえて、情報セキュリティ対策に係る適切な要件について情報収集のうえ、共同化の仕様検討を行います。</p>
12	<p>I. 基本的な考え方と方向性等</p> <p>3. 8つのデジタル原則（プリンシプル）</p> <p>⑦情報セキュリティ・個人情報保護の確保</p>	9	<p>実行段階ではクラウド事業者やセキュリティベンダーとの連携が必要となる。県内にはクラウドサービスに特化した技術者、セキュリティにおいても中央省庁とのパイプを持つ学識経験者や技術者も多数いる。ベンダーに流されない中立な立場で進めてゆくことが大切だと思う。また、定期的な見直しも必要かだと考える。</p>	<p>有識者からの意見聴取や外部人材の登用を行い、情報セキュリティ対策に係る適切な要件に関する専門的な知見に基づいて、共同化の仕様検討を行います。</p>

13	<p>I. 基本的な考え方と方向性等</p> <p>3. 8つのデジタル原則（プリンシプル）</p> <p>⑥県・市町村・準公共分野の協働</p> <p>III. 戦略の推進方針</p> <p>1. 推進体制</p> <p>(2) デジタル人材の確保とネットワーク形成</p> <p>②外部人材の活用と連携</p> <p>(イ) 外部人材とのネットワーク・コミュニティ形成による施策推進</p>	9, 32	<p>課題の解決としてシビックテックの活動との協働を企画されているが、何を期待しているのか。</p>	<p>重点プロジェクトをはじめとするデジタル技術の導入や実装に向けた検討において、行政サービスの水準やユーザーエクスペリエンス、組織の生産性などの向上についての民間の専門的知見の活用を期待しています。</p> <p>また、ネットワーク・コミュニティの形成を図りたいと考えています。</p>
14	<p>II. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト①</p> <p>情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>巨大な組織のさまざまな情報を一つのアプリでまとめることは無理があると思う。まずは、小さな単位でシンプルなアプリを一つ完成させることに注力して取り組んでほしい。また、住民目線だけでなく、企業目線についても電子化を進めてほしい。</p>	<p>県や市町村、準公共分野も含めて、どのような手続やサービスについてアプリを導入し、情報連携すれば、利用者の利便性が向上するか検討し、ニーズを見極めつつ、内容を充実させていく必要があると考えています。</p> <p>行政手続のオンライン化については、企業・事業者目線でも取り組みたいと考えています。</p>

15	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト①</p> <p>情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>キャッシュレスにするだけでは不十分で、ネット銀行も含め広く対応することで、県民にとっての利便性を上げることで、やっと真のデジタル化に近づくと考えている。</p>	<p>利用者目線でのサービス提供を考える中で、決済手段の多様化も検討したいと考えます。</p>
16	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト①</p> <p>情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>一部の申請手続きでは収入印紙の貼付が求められますが、申請手続きの電子化に伴い、こういった納付手段もキャッシュレス化するのか。また、クレジットカードだけでなく、デビットカードなど多様な手段を検討いただきたい。</p>	<p>利用者目線でのサービス提供を考える中で、決済手段の多様化も検討したいと考えます。</p>
17	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト①</p> <p>情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>「ナラプラス」など既存の枠組みを活用、改善しながら、情報を伝達する仕組みを検討いただきたい。</p>	<p>既存のシステムやサービスとの連携可能性も考慮に入れて、検討したいと考えます。</p>

18	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト① 情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>動画配信を行うことはニーズがあると思う。しかし、人が奈良に来なくなると、結果として奈良県の経済損失が多くなるのではと思う。奈良県内に収益が残る仕組みを検討いただきたい。また、奈良のファンを増やすためにも、奈良のプロモーションビデオの作成にデジタル技術を活用することも検討いただきたい。</p>	<p>デジタルを活用して、奈良の土地のもの B to Cプラットフォームを検討し、消費者との関係を構築することで、奈良の食と農の固定ファン層を創出する重点プロジェクトに取り組みます。</p> <p>また、県内で行われるコンサート・講演会などの文化事業の模様や季節に応じた社寺の風景などを Youtube 等の動画で配信を行います。</p>
19	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト① 情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>行政サービスは国、県、各市町村個別のものがあり、システムもすでに稼働しているものがあるので、これらの資産を無駄なく有効活用することを希望する。</p>	<p>既存のシステムやサービスとの連携可能性も考慮に入れて、検討したいと考えます。</p>
20	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト① 情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>配信するコンテンツは基本地域の企業・団体で作成することを望む。また、文化・観光だけではなく、地元産業の紹介もすればリピーターや取引拡大の機会にもなり「(5) デジタルを活用した事業者の経営改善」の効果も期待できる。</p>	<p>利用者目線でのサービス提供として、県内事業者から優れた技術やコンテンツが提供されることを期待します。</p>

21	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(1) 行政手続・業務の組み直しによる行政サービスの刷新</p> <p>重点プロジェクト①</p> <p>情報連携基盤（奈良スーパーアプリ）による行政サービスの変革</p>	11	<p>提供方法において、まだ県内にはスマートフォンを所有していない、また、使い方を熟知されていない方も一定数いるので、複数の通信手段を用意するのが望ましい。</p>	<p>ご指摘の観点も含めて、情報やサービスの性質に応じた適切なデバイスへの配信を検討します。</p>
22	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出</p> <p>重点プロジェクト②</p> <p>医療・福祉・救急間の医療情報の連携</p>	14	<p>個人情報を簡単に共有することは難しいと思う。簡単に個人の診察の情報を共有できないようにしないと、悪意を持った人間は簡単に情報を入手してしまうが、どのように防ぐのか。</p>	<p>適切に本人の同意を得るなど、個人情報の保護に関する法律などの個人情報保護法制や県条例を遵守できる仕組みを検討します。</p>
23	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出</p> <p>重点プロジェクト②</p> <p>医療・福祉・救急間の医療情報の連携</p>	14	<p>医療費が高額な場合は、限度額適用認定証の申請を行うなど保険者等との連携が必要な場合があります。患者を支援する人にヒアリングを行い、必要な行政サービスを利用できるように手続等の情報を整理し、集約化する必要があると思う。</p>	<p>一連の流れの中で、行政手続やサービスをどう組み入れることが、住民にとって最も利便性が高いのかという視点から、情報収集し、関係する手続や住民のニーズを把握、整理します。</p> <p>なお、限度額適用認定証は、従来は事前に保険者に申請する必要がありましたが、マイナンバーカードの健康保険証利用の申込をしていれば、今後オンライン資格確認が導入された医療機関では原則として、申請なしに限度額が適用されます。</p>

24	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト (2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出 重点プロジェクト③ 電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	17	<p>災害時に、データが院外に保存されていることで、広域ネットワークを利用した外部通信が途切れるリスクが大きい。院内にデータ保存していても、院内サーバ室が物理的な被災リスクはあるため、バックアップデータとして、院外に保存することは重要である。ただし、その場合、県立系7病院を共同化しクラウド化するメリットはないと考える。</p>	<p>クラウドサービスで提供されている機能を使い、複数のデータセンターに分散してシステムを運用することで、1つのデータセンターで障害が発生しても、別のデータセンターの環境でサービスを継続することができるようにすることも考えられます。</p> <p>なお、電子カルテ等の病院システムの共同化には、システムの更新や維持管理に係る人的・資金的負担の抑制等の効果が期待され、クラウド化には、より専門性が高く、アップデートされた情報セキュリティが確保できる効果が期待できます。</p>
25	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト (2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出 重点プロジェクト③ 電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	17	<p>「県立系7病院の電子カルテ等の病院システムの共同化」「電子カルテシステムのクラウド化を推進」との記載があるが、薬剤部等の部門システムも含まれるのか。</p>	<p>病院情報システムの特徴を勘案し、最新の技術動向を踏まえて、クラウド化の範囲やインフラ環境等も含め、共同化の仕様検討を行います。</p>
26	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト (2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出 重点プロジェクト③ 電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	17	<p>救急や医療と福祉が円滑にデジタルを使って連携する方法を考えることは重要だと思う。マスタの統合だけでも簡単ではない。病院の特性に応じた柔軟な対応もできなくなる。急性期病院と慢性期病院を同じ電子カルテを使うのも、慢性期病院には不要な機能がたくさんあるため、使いにくく高額になると考えられる。また、物理的に共同化した場合には、部門システムはほとんどオンプレミスであり、ハードウェアの共同利用はすなわち危機管理上のリスクである。設備故障や多発するサイバーセキュリティ事故が起きた時に、すべて同時にシステム利用不能となり、同時に全病院の医療機能が停止する可能性もある。</p>	<p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化の範囲やインフラ環境等も含め、共同化の仕様検討を行います。</p> <p>クラウドサービスで提供されている機能を使い、複数のデータセンターに分散してシステムを運用することで、1つのデータセンターで障害が発生しても、別のデータセンターの環境でサービスを継続することができるようにすることも考えられます。</p>

27	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出</p> <p>重点プロジェクト③</p> <p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	17	<p>共同化について、データセンターなどの物理サーバを共同利用する場合、設備保守がまとめられるため、保守費用の節約になるかもしれないが、故障すると共同利用している全病院の電子カルテが同時に動かなくなるリスクがある。</p> <p>1つの電子カルテシステムを複数病院で使う場合、病院単位でデータベースを構築しないと、病院の組織変更などの際に病院単位で電子カルテのデータベースをきれいに分離できなくなる。また、個人情報保護の問題がある。</p>	<p>クラウドサービスで提供されている機能を使い、複数のデータセンターに分散してシステムを運用することで、1つのデータセンターで障害が発生しても、別のデータセンターの環境でサービスを継続することができるようにすることも考えられます。</p> <p>電子カルテのデータベース等については、同じ電子カルテシステムを複数病院で使用している事例を参考に導入を検討することが有益と考えられます。</p> <p>また、適切に本人の同意を得るなど、個人情報の保護に関する法律などの個人情報保護法制や県条例を遵守できる仕組みを検討します。</p>
28	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出</p> <p>重点プロジェクト③</p> <p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	17	<p>個人情報保護の観点で、オンプレミスでもクラウドでも病院単位で外部に流出しないように厳しく管理することが求められ、簡単に外部に提供できないのが医療情報であると思う。</p>	<p>適切に本人の同意を得るなど、個人情報の保護に関する法律などの個人情報保護法制や県条例を遵守できる仕組みを検討します。</p>
29	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出</p> <p>重点プロジェクト③</p> <p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	17	<p>電子カルテを病院間で共有できることは有効だと思う。ただ、医療データというセンシビリティなデータのやり取りを行うため高度なセキュリティの構築が必要であり、事業者との会話が必要だと思う。</p>	<p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化については、有識者や先進事例等を参考に共同化の仕様検討を行います。</p>

30	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(2) デジタルを活用した「住むと元気になれるまち」の創出</p> <p>重点プロジェクト③</p> <p>電子カルテ等の病院システムのクラウド化・共同化</p>	17	<p>病院のシステム担当者は少ない人数で対応していることが多いと思うが、何人程度で行っているのか。それを何人くらいに減らす予定なのか。</p>	<p>少子高齢化で労働人口が減る中、デジタル技術を活用して、より効率的に業務を行うことを可能にする必要があると考えられます。その観点で、電子カルテシステム等の共同化・クラウド化を目指します。</p>
31	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(3) 高齢者や子育て家庭が抱える課題の解決</p> <p>重点プロジェクト⑤</p> <p>自動運転・MaaS等デジタル技術の活用による地域の高齢者等の移動支援と地域公共交通の持続可能性の確保</p>	21	<p>自動運転がどの程度の性能があるのか。</p>	<p>自動運転サービスにおいて活用されている車両や性能は様々であることも踏まえ、自動運転サービスの検討を進めていきます。</p>
32	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(3) 高齢者や子育て家庭が抱える課題の解決</p> <p>重点プロジェクト⑤</p> <p>自動運転・MaaS等デジタル技術の活用による地域の高齢者等の移動支援と地域公共交通の持続可能性の確保</p>	21	<p>移動手段だけでなく、どの範囲内に人が集まっていれば病院、スーパーなどの生活に必要なサービスを受けられるかをシュミレートするなど、公共交通機関を使用して持続的に生きられるコンパクトシティ化について検討いただきたい。</p>	<p>市町村と協働・連携して、住民等の移動に関するニーズを把握し、地域の実情に応じた公共交通としての実証を行います。</p>

33	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(4) 南部・東部地域の健康増進・生活支援重点プロジェクト⑥</p> <p>南部・東部地域のデジタル化推進のための地域住民を主体とした実行計画の策定とデジタルデバインド解消のための市町村の取組支援</p>	23	<p>「慣れていただきます」という表現だと義務に思うので『高齢者等が「スマホ」に触れる機会を増やします』という表現にしてください。また、「スマホ」に限定せずに、「パソコン、スマホなどデジタル機器」にしてください。</p>	<p>以下に修正します。</p> <p>『デジタルデバインドの解消に向け、まずは高齢者等が「スマホ」に触れる機会を増やします』</p>
34	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(4) 南部・東部地域の健康増進・生活支援重点プロジェクト⑥</p> <p>南部・東部地域のデジタル化推進のための地域住民を主体とした実行計画の策定とデジタルデバインド解消のための市町村の取組支援</p>	23	<p>駐在所に限らず、ウェブ会議を行えるインターネット環境を整えれば、南部東部でも必要な医療や教育を受けることができ、若者が成人するまで南部東部で暮らせる仕組みができるかもしれない。公民館や集会所についても、高機能化を検討いただきたい。</p>	<p>本戦略では、「南部・東部地域の健康増進・生活支援」を主要テーマに掲げており、それぞれの地域の実情とニーズに応じたデジタル化を検討します。</p>
35	<p>Ⅱ. テーマと重点プロジェクト等</p> <p>1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト</p> <p>(6) 食と農の収益力向上と賑わいづくり重点プロジェクト⑦</p> <p>奈良の土地のものBtoCプラットフォーム</p>	25	<p>BtoC って何か。</p>	<p>Business to Consumer の略で、生産者が消費者に直接届けるモデルのことです。</p>

36	II. テーマと重点プロジェクト等 1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト (8) 県土マネジメント等のデジタル・トランスフォーメーション	29	県土DXとは何か。	県土DXとは、県土マネジメントのデジタル・トランスフォーメーションのことで、以下の事項について、取り組みます。 ・道路、河川及び砂防に関すること。 ・県土利用及び都市計画に関すること。 ・住宅及び建築に関すること。
37	II. テーマと重点プロジェクト等 1. 当面の主要テーマと重点プロジェクト (8) 県土マネジメント等のデジタル・トランスフォーメーション	29	必要な専門職の人員の確保とデジタル技術に習熟した専門職の育成について検討いただきたい。	本戦略においては、全職員に基礎的なデジタル・リテラシーを身につける研修や、高度な政策設計能力とシステム・アプリの基本的な開発レベルのデジタル技術を習得する研修を実施します。 また、市町村とともに、デジタル技術の活用事例を共有する機会を設け、行政職員の知識習得とスキルアップを図ります。
38	III. 戦略の推進方針 3. 関連制度・システム環境の見直し	32	「県職員が主して業務を行うネットワーク環境をインターネット系に転換します」とあるが、すべきでない。	「地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（令和2年12月版）」の内容を遵守した情報セキュリティ対策を行いながら、安全にインターネット系への移行を行います。
39		全体	設定期間の短さや内容など絵空事じみている現実的な計画策定とは思えない。また、外部の専門家やデジタルに触れることが多い若い方の意見がよりよく反映される体制なのか不安。	デジタル化の考え方については、単なるIT化やシステム化ではなく、住民の課題解決等を出発点に「デジタル化によりできること」を実現することを基本スタンスとしています。 介護分野については、医療機関と介護施設間の情報連携を可能にすることで、福祉施設でのサービスの高度化・最適化を進めます。 また、民間人材の登用や民間人材とのネットワークコミュニティ形成を図ります。

40		全体	各施策のプロジェクト成否の指標は何でしょうか	各プロジェクトにおける「デジタル化によりできること」を実現するためのシステム稼働やサービス導入、その他デジタル技術の社会実装が指標として考えられます。具体的な指標については、今後、各事業実施時に検討する予定です。
41		全体	具体的に、いつまでに何をだれがする、そのようなことは書かないのか。また、今後なにか具体的に考えている事はあるのか。	戦略の対象期間におけるスケジュールを掲載いたします。 また、デジタル原則の1つである「県・市町村・準公共分野の協働」に従って、重点プロジェクトである「情報連携基盤(奈良スーパーアプリ)による行政サービスの変革」を推進し、住民の利便性向上に資するアプリの導入を検討します。
42		全体	各施策の優先順位の有無はあるのか。並列な施策なのか。	本戦略として、8つのテーマを当面の主要テーマとし、そのもとに重点プロジェクトと関連プロジェクトを設定しています。 また、実行計画として、スケジュールを掲載します。
43		全体	奈良デジタル戦略の対象は県全体が対象だと思うので、本部の名前と同じ「奈良県地域デジタル化戦略」にすべきだと思う。	本戦略は、本文にもあるとおり、県のみならず、市町村や準公共分野のプレイヤーとも連携して実現する戦略なので、「奈良デジタル戦略」としています。
44		全体	文章中にカタカナが多すぎて、とても読みづらい。	一般的に使用されていないものについては、脚注に追記します。

45		全体	<p>文書中に括弧書きで説明がある言葉とない言葉の違いが分からない。あと、日本語（カタカナ）、カタカナ（日本語）など表記が統一されていない。</p>	<p>適宜、単語等の意味を補足するため、かっこ書きまたは注釈をよりわかりやすいように見直しました。</p>
46		全体	<p>大阪や三重にはデジタルを体験できるような施設がある。奈良県にも同様の施設があると思う。また、「です」調と「である。」調は統一した方が良い。</p>	<p>本戦略では、「デジタル化によりできること」を実現することを基本スタンスとし、重点プロジェクトを設定し、県民や事業者の方にデジタル化によりできることを実感してもらうような取組を進めます。 また、文章表現は統一します。</p>
47		全体	<p>防災のためのインターネットと設備配備について、村内の居住エリア全域にインターネットをメッシュ状に広げ、電柱などに監視カメラ（理想はサーモ付）と各家庭にWi-Fiを搭載した火災報知器を配布してはどうか。</p>	<p>本戦略では、「南部・東部地域の健康増進・生活支援」を主要テーマに掲げており、それぞれの地域の実情とニーズに応じたデジタル化を検討します。</p>